



「将来が不安で仕方がない君へ」

臆病だつたボクが
資産運用を
始めた理由

投資コンサルティング
大福不動産

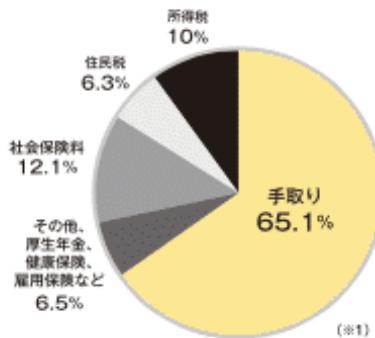


株式会社 大福不動産

〒810-0073 福岡県福岡市中央区舞鶴2丁目7番3号 2階

TEL 092-718-0129 FAX 092-718-0133

第1章 「常識は時代によって変わる」



「こうやって見てみると衝撃だよな。
一年のうち、4ヶ月くらいは
税金のために働いてるってことか…?」

※グラフと数字はイメージです。
各人によってパーセンテージや数字は変わります。
※扶養の人数により数字は変わります。

「ふむ、悩んでおるな

「給料日なのに贅沢もできないなんてな。
お昼も500円以内に節約して、
ほんとはスタバにでも行ってコーヒー飲みながらゆっくり休憩したいところだけど、
コンビニのコーヒーをテスクで飲んでガマン…
こうやって節約はするにはしてるけど、こんなことで本当にお金なんて貯まるんだろうか…
はあ…今日はもう寝よう…」

「だ、だれ!? え、神様?」

「まあ、神様のようなものじゃ。

大福さんと呼んでくれ

「大福さん?」



「おぬし、お金のことで悩んでおるんじゃろ?」

「なんで分かるんですか?」

「ふおつふおつふお。わしには何でもお見通しじゃ!」

よからう、悩んでるおぬしに大切なものを授けよ!

「え、何ですか? 節約の方法とかですか?」

「まあ、そう急ぐな」

「増やしていくって… どうやって?」

いくら節約をしたって限界があるじゃろー!」

「違う!」

「だつて、このまま時間だけが過ぎていくのが不安なんです」

「ふむ… ならばおぬしの40年後を見に行けばよい。ほれ！」



「……」

「落ち込んでおるな」

「だつて、想像していた未来とは
まったく違いました…」

「どんな未来を描いておったんじゃ?」

「そりゃあ、今まで頑張った分、定年後は旅行したり、いろんな趣味を楽しみながら老後を満喫して、家族に囲まれて、幸せに暮らして……」

「誰もが思い描く未来じゃよ」

「なんであんなことになつたんだろう。
70歳を過ぎても、まだ働き続けているなんて…」

「じゃあこの先どうすればいいんですか?
人生100年時代って言われてるのに、もう人生あきらめろつてことですか?」

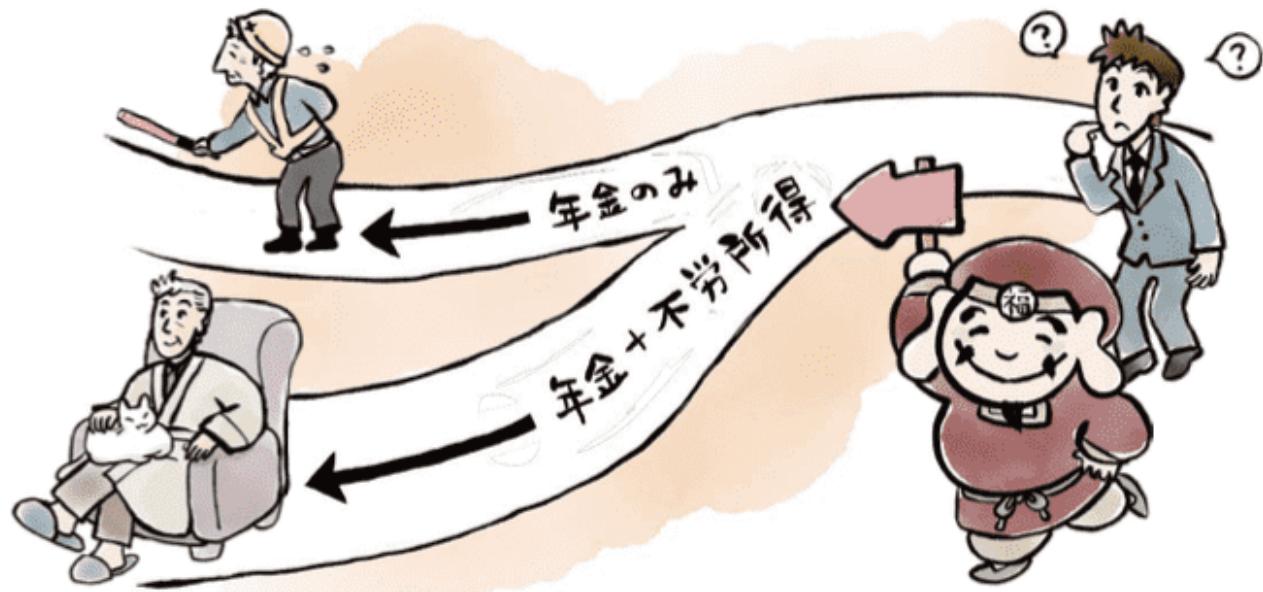
「まあ、そう焦るな。そつとは言つていない。こゝで理解しておくのは、常識は時代によって変わる。ということじゃ。人は時代の変化に対応して生きていかねばならん。つまり将来のために今、策を打てるかどうかが運命の別れ道となる。それが現代の常識なのじゃ」



大福さんの
教え

- ・常識は時代によって変わる。
- ・時代の変化に柔軟に対応すること。
- ・昭和の常識は、今和の非常識。

- 「時代に、対応する…」
- 「時代の流れを考えてみなさい。昭和の常識は、終身雇用で年功序列じゃった。国と企業のために働いていれば、定年後は手厚い国民年金と厚生年金で悠々自適なセカンドライフがあった。じゃが平成になりそれらも崩れた。
そして今は令和の時代じゃ。社会構造が変わり、年金システムも変わり、受給開始年齢は遅くなり、受給額も減額される。令和は終身雇用も年功序列も無くなっていくじゃろう。つまり将来のために今、策を打てるかどうかが運命の別れ道となる。それが現代の常識なのじゃ」
- 「現代の…常識…」
- 「ではズバリ言おうーおぬしに必要なことを!」
- 「な、なんですか…?」
- 「おぬしに必要なのは、資産運用じゃ!」
- 「資産運用??」
- 「令和の時代は資産運用が必須となる。
しかもじゃ、若いうちから始めた人と、始めていない人では将来に大きく差が出ると言えよ!」
- 「わあ… そういうことなのか…」



第二章 「何もしないことが一番のリスク」



常識は時代によつて変わる、か。

しかも資産運用が必須つて…

大げさじやないか？

それってみんな知つてるのか？

俺だけが気づいていないのか？！

「いきなりなんだけどさあ…
資産運用つてしてる？」

「資産運用？ ああ、してるけど」

「そうなの？」

「俺ら世代は年金が出ないって言われてるし、
テレビでもやつってるだろ、金融庁が発表した老後

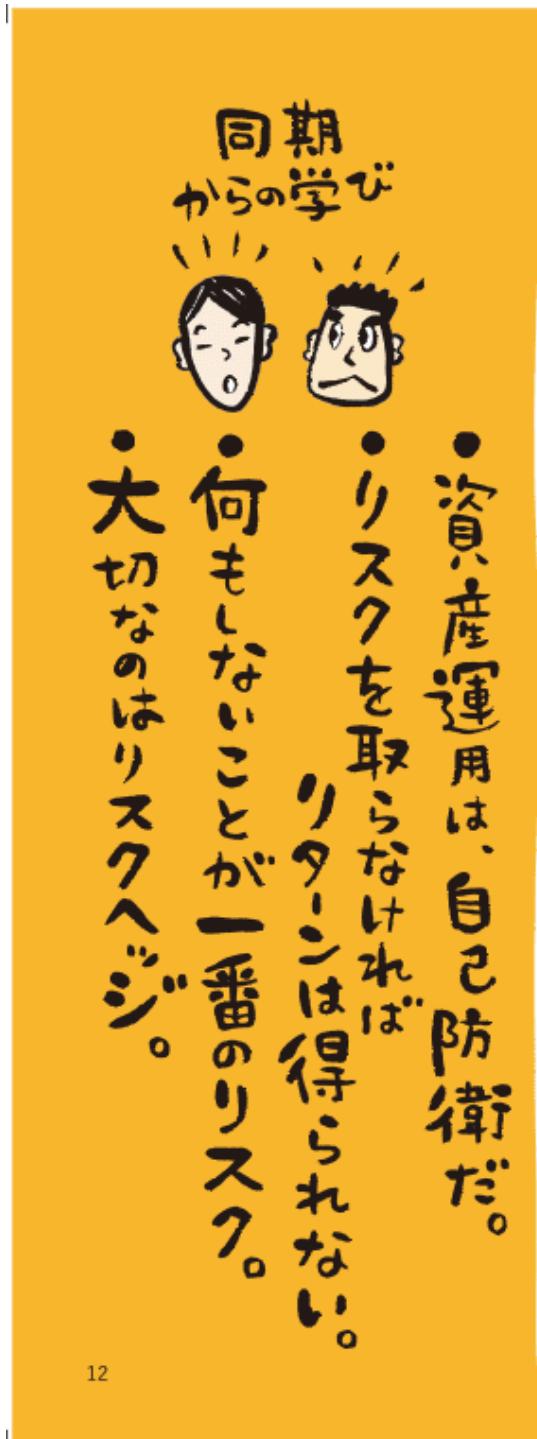
2千万問題。年金に頼るんじゃなくて、今のうちに
準備をして、自分で資産運用して自己防衛して
いくしかないだろ」

「そうそう。俺もよくよく考えたらヤバいと思つ
て去年から始めたよ」

「え？ お前も？ 意外すぎるんだけど…」

「だって、俺たちあと何年生きるんだ？ 人生100年
時代って言われてるし、もう時代は令和だぞ、お
前はまだ昭和の考え方なのかな？」

常識は時代によつて変わるんだから、昭和の常識
をいつまでも引きずつてないで、令和マインドに
さつさと切り替えたほうがいいと思うな」



- ・資産運用は、自己防衛だ。
- ・リスクを取らなければ
- リターンは得られない。
- ・何もないことが一番のリスク。
- ・大切なのはリスクヘッジ。

同期
からの学び



同期で同じ給料をもらつてゐる
こいつらが資産運用をしてるなんて……
もしかして

A cartoon illustration featuring two men in guard uniforms. The man on the left is wearing a blue uniform with a yellow cross on the chest and has his right arm raised in a salute. The man on the right is wearing a grey uniform and has his hands on his hips. They are standing in front of a brown treasure chest. The word "GUARD" is written in large, bold, black letters above them.

「いいか、リスクをとらないのが一番のリスクだ。ただし、どういうリスクをとるのか、そのリスクをいかにリスクヘッジするかが大事なんだ。要は、何もしないことが一番のリスクなんだよ」

「あれ、そのセリフ……どつかで聞いたような……」

「俺ら、何も運用で儲けて金持ちになろうなんて考えてないからな」

「将来のため、老後のため、家族・子どもを守るためにもあるしな。

「うん、自己防衛なんだよ」

「考えてないからな」

第3章 「時間を価値に変えるということ」

「なんだよこれ、資産運用って言つたって、株、FX、保険、不動産…情報があり過ぎて分かんねえ…。もう今日はいつか、疲れだし。寝よっと」



「おや、もう考えるのをやめるのか？ お前の仲間たちも最初はそうじゃった…『ゴホン』」

「あ、大福さん。何から始めてどうすれば良いか、混乱してきちゃって。不安が消えるどころかどんどん不安がふくらんでいます」

「では、算数の問題を出そう。君はいったい、あと何回給料をもらえると思う？」

「何回？ 回数ですか？ ええと、年に12回で賞与が2回。今、32歳で定年が65歳だとすると33年×14回で462回、かな」

「では、すでにもらい終わっている給料は何回だ？」

「22歳で入社したから140回は終わっています。終わっている、っていうとなんか嫌だな」

「それで貯金した額は？」

$$\begin{aligned}
 &\text{年給} + \text{賞与} \\
 &+ 12\text{回} + 2\text{回} \\
 &\text{定年まで } 33\text{年} \\
 &14\text{回} \times 33\text{年} \\
 &= 462\text{回}
 \end{aligned}$$



「う、それは……微々たるものです」

「よく聞きなさい。おぬしの収入の回数は残り434回だ。それが40歳になれば残り350回、50歳になれば210回になる。資産を運用するにも時間が限られておる。早く準備することに越したことはないのじゃ」

「そ、うか。同期のやつらが言っていたのはそういうことだったんだ。早い方が良いって意味がやつと分かりました」

→「では、このまま貯まらない貯金と増えていく税金、減っていく年金に不安なまま生きていくのかね」

「そりゃあできる」となら俺たって同期のやつらみたいに将来を考え、資産運用したいですよ」

「では、なぜできない?」

「貯金はないし、投資できるだけの余分なお金なんてありません」

「では仮にじや、おぬしに車が必要になつたとき、貯金がなければ買わないのかね?」

「そのときはローンを組みますよ」

「ほほう。ではなぜ、お金がない若者がローンを組めるのかのう?」

「そりゃあ、俺みたいな人間でもちゃんと会社に勤めていて毎月、給与があるからでしょう」

「そう。それが社会的信用というものだ。ではなぜおぬしは借金をしてまで車がほしいのだ?」

「だつて、車を買えるだけのお金を貯めるのには何十年もかかりますよ。それまで待つていたら人生の半分が終わってしまう。今、必要なんです」



主人公が得た
一歩、踏み出す勇気じや。

- ・時間は価値に変えられる。
- ・過去は変えられないが、今からの未来は変えられる。
- ・相談できる専門家を見つける。



じや？

「一步、踏み出す勇気じや。一人じやどうにもならん。相談できるパートナーを見つけることじやよ。まずは専門家に聞いてみてはどうじや？」

「対策が必要ってことですね。でも、何からすれば良いか？」



「早く買ったほうが使える期間は長いですから」

「なるほど。ローンを組んで早く手に入れている。つまりは、時間を買っている。ということだな」

「そうじゃ。時間は誰でも平等に持っている。その時間をどう価値に変えていくのか？を考えねばならん」

「資産運用も時間の使い方だと言うんですね」

「わかつてきたようじゃな。すでに金融庁が今の年金制度は成立しないと正式に認めた。老後のお金の備えに国民の自助を求めておる。要は、老後の資金を国に頼らず自分で資産運用をしていく必要があるということじゃ」

「このように時代は変わっている。おぬしはもう将来を見に行つたじやろ！ 将来どうなるかわかつておるじやろ！ 過去は変えられないが、今からの未来は変えられるじやろ！だからこそ前もって時間を価値に変えられるように準備しておくことじや」